

ケース・スタディに関するガイドライン

2020年3月改訂版

書面によるケース・スタディを提出していただく目的は、受講生がコースとコースの間に確実に練習を続けられるように、また動物とクライアントとの作業を上達するためにフィードバックを受けられることができるよう、さらにプロフェッショナルな記録システムのスキルを身につけていただくためです。

そのため、1回につき3件を超えるケース・スタディと4件を超えるチェックリストは受け付けません。提出したケース・スタディに対するフィードバックを、次回のケース・スタディに利用していただきたいのです。

ケース・スタディの必要条件

合計21件の伴侶動物（ペット動物）のケース・スタディを以下の通り提出しなければなりません。

- ① 認定コース3回目参加時: 3件のケース・スタディと4件のチェックリストセッションの回数、動物の飼い主の介在は問いません。
- ② 認定コース4回目参加時: 3件のケース・スタディと4件のチェックリスト
このうち最低2件はクライアントの動物(動物とその飼い主)についてのものであること。
また、最低2件は複数回のセッション(2回以上)であること。
- ③ 認定コース5回目参加時: 3件のケース・スタディと4件のチェックリスト

このうち、最低4件はクライアントの動物(動物とその飼い主)であること。また、そのうち最低3件は複数回のセッションであること。

ケース・スタディの対象は伴侶動物に限ります。家畜、野生動物、人については認定資格取得要件の対象とはなりません。

各ケースは異なる動物個体でなくてはなりません。ケース・スタディを提出した後に、その個体とのセッションを継続することがあるかもしれませんが、それは別のケースとはみなされません。例外としては、同じ個体で非常に異なる問題を扱う場合があります。例えば、犬の吠えに関する問題が1件目で、その後、その犬が手術をうけて回復を手助けすることが2件目といった場合です。

チェックリストの記入について

行ったタッチやテクニックのボックスにチェックマークを入れます。
オプションとして、簡単なコメントを下の空欄へ記入しても構いません。

ケース・スタディの記入について

あなたのケース・スタディを読む人が、そのケースに関連する情報と、セッションの間の進捗がわかるように、簡潔に書かれていることが大切です。

セッションを行うに当たって

1) クライアントから情報を集める。良い質問をすることが、基準を明確にし、さらに重要な情報を得るのに役立つでしょう。

2) 明確な目標を定める。

プラクティショナーとクライアントが異なる目標あるいは同じ目標をもちながらも、異なるイメージに向かっていった結果、うまく行かないことも多いようです。これは、クライアントに取り組む問題を何か決めてもらわねばならないことではありません。クライアントによっては、自分の動物と一緒にTタッチを行う方法を単に知りたいだけという場合もあるでしょう。高齢の動物のQOLを高めることが目的かもしれません。もちろん、何かを変えたいというケースが多いとは思いますが。

クライアントが、自分の動物にこうなってほしいと思っていること(こうなってほしくないではなく)の明確なイメージを持つことが重要です。もし、動物の行動に対するあなたの観察とクライアントの観察が異なっている場合、そのことをクライアントに伝える際には、言葉選びなどの気遣いをしてください。

3) あなたと動物との時間、あるいはクライアントと動物との時間の配分に気を配る。

情報を収集し、動物とワークを行い、できるならクライアントにも動物とワークを行ってもらえるように、時間配分しましょう。ただやり方を見せるのではなく、次回のセッションまでに行って欲しいことができるように、クライアントが動物との練習をしっかりとできるようにしてください。あなたが提案したことをどの程度クライアントができるかによって、方法を変えることも必要かもしれません。最後にまとめの時間をとり、必要に応じて次のセッションの予定を立てましょう。

4) あなたがTタッチを行っている間、クライアントに話しかけていないといけないという訳ではありません。しかしながら、今行っていることが目標に関連したものであることを、クライアントに理解してもらいたいのです。この会話技術は、練習を重ねた結果ついてくるものです。クライアントと、動物と、様々な可能性を探ってみましょう。そして、この動物とクライアントには何が最も効果的かを決めていきます。

5) 私たちがケース・スタディを読むということは、あなたが行っていることの動画を私たちの頭の中で観るようなものです。そのために以下を含めて記入してください。

<1 シーンを設定する>

- 動物種は？ 犬であれば、犬種は？ 年齢は？ 性別は？
- 家庭についての情報が重要な場合は、同居する家族や他の動物についての詳細も含めます。行動問題がある犬については、こういった情報が特に重要であるかもしれません。健康問題についてであれば、それ程必要ではないかもしれません。
- その他の基準となる情報: あなたが近づいた際に動物の様子はどうだったか、どのような情報を収集できたか、姿勢・バランス・身体の快適性・環境への反応などで気づいたこと
- 体に触れられることに対してどうか？
体のあらゆる部分に手を置くことはできるか？
動物はどのように受け容れているか？
体の感触はどうか？(温かい、冷たい、硬い、柔らかい、被毛の感触、筋肉の状態)
- 姿勢はどうか？ 犬であれば、リードを引っ張るか？
バランスのとれた状態で立っているか？
周囲の状況によって変わるのか？
- セルフコントロールができていますか？
その猫・犬・ウサギはコンテインメントができるか？
自らバランスをとって立てるか？

<2 何を行ったか？>

- あなたが行ったことを十分に説明できる情報。T タッチの種類、使用した用具、伝えたことをクライアントが上手くできたかなどを含めて。
- どのような用具を使ったか？
首輪？ ハーネス？
シングルまたはダブル・リード？
何か所のポイントで繋いだか？
その他の用具は？
- どんな違いに気づいたか？
その違いの結果、どんなことを行ったか。

<3 あなたが行ったことの結果、何が起きたか?>

- 動物は容易に受け入れてくれたか?
容易に受け入れてくれなかった場合、より容易に受け入れてくれるようにするために、あなたが行ったことをどのように変えたか?
それにより動物の反応はどうだったか?
- クライアントが自分で 上手く行うことができたか?
上手くできなかった場合、手助けするためにどのようなことをとり入れたり、どのように方法に変えてみたか?
そのセッションで、クライアントの目標に向けてどこまで 到達できたか?

<4 その他、気をつけること>

- 次回行う時にやってみたいと思うことやクライアント/動物との次のステップを書き留めておくことは、役に立つでしょう。また、そのセッションで動物に行ったことに関する感想やあるポイントに関する学びについて書いておいてもいいでしょう。
- 各セッションの終わりに必ず記録をつけてください。その時の記録は結構な情報量となると思いますがケース・スタディとして提出する時には、その記録を要約したものをケース・スタディとして提出してください。
- たくさんの情報を簡潔に記入してください。書き方に自信が無い場合は、たくさん書き進める前に 1~2 件のケース・スタディをメンターかインストラクターに見せてフィードバックをもらい、それから残りを仕上げるといいでしょう。
- 成功しなかったケースが、良いケース・スタディとなることもあります。次回は別の手法をとってみようと学べるのがたくさんあるかもしれませんし、目標に到達できなかったとしてもその過程で貴重なことが起きたということもあるでしょう。

どんなことでも質問がある場合は、あなたのメンターかインストラクターに確認してください。あなたが学んだことを応用できるプロセスを楽しみながら、Tタッチをひとつ行う毎に世界を変えていきましょう!

Changing the world one TTouch at a time!